

エコミュージアムとは、地域全体を一つの博物館としてみたと、地域資源の保存、復元、活用について地域住民が積極的に参加することで、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

エコミュージアムへの思いを伝え、会場と対話した2時間

合併を機に、エコミュージアム事業を広く市民等に知ってもらおうと、平成19年12月8日にエコミュージアムシンポジウムが開催されました。城山公民館に90名近い参加者を集め、「いま「エコミュージアムがおもしろい」」をテーマに基調報告とパネルディスカッションを行いました。

■ 基調報告：山口 清さん（元城山町教育委員会教育長）

はじめにクイズを4問出題され、興味づけをされました。

城山町では里山や神社、寺などを巡るモデルコース（ツアー）を作り、地元の人や育てる会の人々が語るという活動を行っています。町制50年を機にはじめた昔の写真展は3年目、街道を調べるグループもできています。

城山町でエコミュージアムが目を向けなければならないのは自然や歴史、民具などで、高度成長を支えたダムや発電所もあり、大型店舗も進出してきています。そういう社会変化の立場から眺めてみることも出来ると思います。

身近な展示物を住民の手で再発見して文化的な価値を高めてきたと思います。その作業のプロセスが学習となり、成就感を満足させて、学ぶことの喜びを与えてくれるものと思います。



■ パネルディスカッション

身近なところにあったエコミュージアムのおもしろさ



●パネリスト
田畑 房枝
さん
(城山町エコミュージアムを育てる会)

人と人とのつながり

子どもが小学生の時授業で学習した原宿用水や龍籠山の伝説、縄文時代体験など見ていて楽しかったことが城山町エコミュージアム（町がまるごと博物館になる）に興味を持ったベースになっています。

縄文時代から続く城山町の歴史や文化、自然の豊かさを後々まで保存し継承していくことは、地域住民として重要なことだと思います。

活動を通じて色々な方のお話を聞ける、人と人とのつながりができることがうれしくずっと続けていきたい思いです。



●パネリスト
塩谷 弘道
さん
(城山町エコミュージアムを育てる会)

古老の説得力

退職を前に、この城山町で暮らすには町のことを知りたいたい、と思っていた時にエコミュージアムという言葉に出会い、ワークショップに参加しました。町をめぐるモデルコースをつくるうちに、自分の知らなかった新しいことを知る喜びを得ました。

町の歴史や文化、自然など、地域を学習する良い場となっています。

活動では、語り部として地元の方の生の声を聞きます。古老といわれる方の話は説得力があり、「博物館」として残すべき貴重な事柄です。



●パネリスト
茂木 慶三
さん
(城山町エコミュージアムを育てる会)

写真収集の喜び

2005年、戦後60年、町制50年という節目の年に古い写真を集めようと考えました。ひと口に集めると言っても思いのほか難しかったのですが、大勢の方が協力してくださり、たくさんの写真を収集し、データにし、展示をしてきました。これは、これからも続けていくべき「博物館」としての活動です。

この写真収集を通じて地域への理解が深まり、見えないものも見え、聞こえないものが聞こえてきました。そして、何よりも、人とのふれあいの喜びを感じられたことが、一番良かったことです。

自分の住んでいる土地をあまりにも知らない、知りたいということがエコミュージアムの活動に参加する動機となっています。

城山町エコミュージアムは6年経ち、今までは試行錯誤で進めてきましたが、これからはきちんとした成果をだしていく時期になってきていると思います。

多くの方にエコミュージアムの活動に参加していただき、学ぶ喜びや、地域をまるごと体で感じてほしいと思います。



●コーディネーター
小瀬 康行
さん
(城山町エコミュージアムを育てる会)

■ 会場との対話



先日、育てる会の方に葉山島コースを案内して頂き、グループで歩いてきました。ガイドしてくれるシステムがあったら良いと思います。(若葉台在住)

A) ガイドブックの作成、案内板を立てる等も考えています。



ツアーに参加したのですが、皆さんがおもしろいまでにのめりこめたのは何だったのですか？(久保沢在住)

A) 参加する方達と一緒に過ごせる楽しさです。



貴重な写真ですので、将来出版し、町を知って頂けたら良いと思います。(小倉在住)

A) アルバムにすることや巡回の写真展の開催も考えています。



座間でエコミュージアムを勉強し、写真を集めたいと思っています。どの様な方法で写真を集められたのですか？(座間市在住)

A) 広報紙に掲載したり、家庭訪問をしました。

■ 講評



馬場 憲一さん
(法政大学教授)

城山町エコミュージアムの活動は生涯学習や資料の収集、保管、調査研究など学術性の担保に共通理解を得られやすい環境の下に行われてきていることが特徴です。また、常設展示と企画展示というユニークな展示活動も試みられています。

住民参加の点ではエコミュージアムを育てる会が毎年いろいろな事業を行っているのも評価できる点です。

古い写真を収集し展示会を開催し、モデルコース作成時に遺産に関わる〈記憶〉の収集と記録化に努めるなど、住民の主体的活動の萌芽がみられてきています。

今後の課題としては、博物館として拠点づくり、野外展示物の選択、資料の調査研究と記録化、目録づくりなどが必要になると思います。

さらに市民に対する生涯学習の保障とそれを支える仕組みづくりや継続を図るためにエコミュージアム条例を制定してほしいと思います。

■ 同時開催の昔の写真展



しろやま探訪 - 下馬梅伝説 -

城山町城北地区の榎本酒店の東側約50メートルのところにあります。

八王子城が豊臣秀吉の軍に攻められ落城した際、津久井城へ伝令に走った騎馬武者が落城を知りムチの代わりに持っていた梅の枝を道端に突きさしました。その梅が根つき春になると花を咲かせました。土地の人々はこれを「下馬梅(げばうめ)」と呼び大事にしてきました。



育てる会ワーク ショップだより

1月26日に行われたワークショップでは、①シンポジウムの結果について ②作成予定のガイドブックと昔の地図(大山道)の編集のねらいや内容について検討しました。

そのほか20年度には、城山町地域と境川流域の町田市の昔の写真展も計画されています。

発行：相模原市教育委員会 城山教育課
企画・作成：城山町エコミュージアムを育てる会
問い合わせ：TEL：042-783-8080
FAX：042-782-1290

エコミュージアム活動は「城山町エコミュージアムを育てる会」が中心となって進めています。和気あいあいと楽しみながら行っています。ご興味のある方は、左記までご連絡ください。

次回の催しには、皆様もふるってご参加下さい。